とうにも売れないのだとい わけが判らない。どうにも うさつばり売れないのか、 いというのだ。どうしてこ 雑貨店主と話した。売れな 梅雨あけの或る日、若い

なことを云つた。 比較にならないから、と同 意してこの若い店主はこん

農業協同組合のような、

ボクのところ。ルのサービス販売にふみき

かなければ日本の農業も先 共有化にまでふみ切つてゆ 辺はミカンで割合に楽な生 ことではないだろう。 この 問題は本質的にかたのつく 共同田植などということで

それはまた、この地域のす

て三年間、資料の山 (下) 汗にざみれ

千余点におよぶ資料を基礎

町史編さん委員会の手

三ヶ年の才月を費し、三

|「昭和三十二年四月、富二

希望を深めよう…

への墓情を温め、

川町・松野村の合併が成立 一部は次のとおり。 町史編さん委員長(町助

から雨三山を望む。れる。

べての消費者の不幸なの。 か方法がないのだろうかっ

くつて、

思い切つたスケー

商店の強力な共同体でもつ 活だが、最終的には土地の

一消費者

잎

月買う気になれない。

実際そうですね、とても

農業の場合でもそうだが一てゆきたい。大資本に対応

自分だけでもなんとかやつ みんな、古いのれんの中で

この若い店主は別として

写真説明()

舎の落成 式は、一

十七日午

郷土三千年の歴史を綴る

(上) 胸ふくらませ

十頁、装丁も立派な歴史書

する手段もなく、ただ身を

Ç

心、完成增築新校舎 る第一中生徒の前に

(右上) 同校舎三階 千部の町史は、重さ、実に (右下) 同校舎屋上 れた。25日より配付開始さ

されている。

宿願が…

二トン、会議室に山積みさ

役―中川国兵氏)の序文の

先人の生活を思んで、

そそりたつ教育の殿 つた。

として出版されることとな 第三編―近世、第四編―最

粉にして、水が低いところ

喜 町の

教員家内部。

へと細利を追求してゆく へ流れるように末端へ末端 より

特に衣料や用具類を当町で いうくらい富士か吉原だ。

いかな…… つてゆけなくなるんじやな でも、生活用品のすべてと一つてゆかなくては、もうや一が知れているというものだ

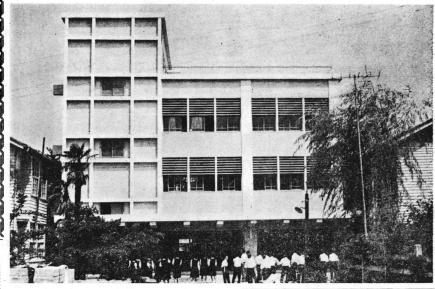
7

月

뮥

富士川町役場内庶務課広報係 静岡県庵原郡富士川町 111 発行人 助役中 K ĘĘ. 電話 岩湖 3・120・127

印刷所 望月印刷所 電話 岩渕 304



## 中学校の した第一 ケ月、つ 增築新校 いに完成 工以来七 た。これにより第二中学校 を収容する教室確保のため を願う町民の要望が実現さ 十三日着 つは見事、結実するに至つ 年に圧倒的に増加する生徒 十二月二 政方針中、三大事業の内一 じ、昨年 年度当初、示された町長行 万円を投一めて挙行されることとなり 一四〇|後二時より関係者多数を集|の教育機関は一歩また一歩|室などの管理部分の移転が の新築校舎と共に、わが町一に、校長室、職員室、事務一れたものである。 鉄筋コンクリート三階建一七〇坪 富士川町史っこ完成 おもに管理部門に使 と、充実しつつある。

必要になつたためであり、

に使用されるが、37年・38 執務環境快適化から、町の なおこの校舎は管理部門 又それと併せて、教職員の 子弟の教育に一層精励傾注

健国

健康保険税

期

(東)

23日に役場に到着した一という体系をもつて編さん 残そうとする町史編さんの 富士川町史が本文八百八 により完成したもので、第 として発足したこの機会に |一編||古代、第二編||中世||郷土変遷の姿を集録して、 近世、第五編―各論の通史 より現代に及ぶ文化遺産を 次代のため、わが町の占代 の苦心は高く評価される。 町史編さん委員会の長年 あくまで郷土 総十

残務整理に入る編さん委員

# 夏空に輝やく新校舎

(7)担保―百万円までは不要 (6)保証人—一名。 6毛、

(詳細は気軽く商工会へ)

(5)貸付利率—日歩2銭4厘 (4)返済方法—貸付後1カ月

年の盛夏である。

来い一来いー、ホータル来 顔も晴々しくない。「夏よ

」大人でさえ待ち遠い今

月利7厘5毛、

年利

白馬や漆のごとき夏羽織

白扇」はいゝものだ、



(3)貸付期間―運転資金は20 などは五十万円) 会社は二

口万円まで。

も生きて来ない。 海の背も、開襟シャツの白

25カ月、

設備資金は40~

蔵庫ブームですよ」と話し

「世はまさに扇風機、

ていた電気器具店の親爺の

七月三十一日納期

固定資産税 第二期

用

九六三年形の娘さんにはピ和初期の何といえよう。一 に推せんしますよ。 に郷愁を感じている者は離ことがない。——夏の風物 たら三汀の句は大正から昭 か、老人ホームの会長さん ンと米ないであろうが、 虚子の句を明治の句とし たえぐに属つかいて恋

吞み、夏よ来い、来い。 てしまつた。ビールのグィ い恋愛は、文化財的になつわず胸があつくなる品のよ 夏羽織に至つては全く見た

# ● 商工会より―― お知らせ欄

貸付について。 者に対する国民金融公庫の 中小企業

まで(但し、食堂、理容業 ②貸付限度—個人は百万円 (1)申込資格 | 質屋などを除 い。人道雲が立たなければ て、暑くないと感じが出な 夏はやつばりからりと晴れ te

う気象庁の御宣託であるが 1 夏形天気は、 影響で、本もの 異常梅雨前線の いと来ないとい 二十日過ぎでな 今年の梅雨は

役場職

組

生

例

で

関 連

例

决

議

っ

さんと仲良く暮らすために

いた。

三の昼火事

### 水泳 国道30分間も交通マヒ 11 to 36



一小2年生 水と遊 ぶ第

役場職員組合が結成された 六名から成り、選挙の結果

認められた合法的な組織でます。

今後どこまでも公務員と

| ことは、地方公務員法にも|労働条件が必要なのであり

全課長も含め役場職員六 あります。

に久保田安男氏(分室主任

される組合運動をしていきと考えます。

になつてくるのではないか

範囲においての運動が必要 組合も、常識をはずれない

ここにおいて、私たちの

よろしく御支援下さい」

書記長に風間清治氏(国 勝呂つる氏(庶務課文書

衛生主任)が選ばれ、

は、その住民の福祉増進を たいと思つています。

三十分より開会された町議

なお七月九日、午前九時

私たち自治体職員の職務

土木課水道主任)副委員長 そして町民の皆さんから愛 初代委員長に望月義信氏 (しての誇りを持ち、健全な 中生徒の天国となる。 ルも開き、九月十日まで小 盛夏、第一小学校のプー ル は

損害

約七百万円

開く

又、一般の人たちにも月一う呼びかけている。 曜 め)毎日午後五時から午後 示にしたがい事故のないよ 教委会では、管理人の指 八時まで開放される。 金曜を除き(排水のた

三台、富士市三台)手びき プー一台(町五台、蒲原町 します。 被害額七百万円にのばつた

は、池上憲氏工場、田中又所有工場より発火した火災 建築材製造業小永井一雄氏 七月八日午前八時五十分 九時五十分鎮火した。 吉氏倉庫の一部を類焼、同 全焼三棟、半焼一棟の計

車四台(本州製紙一台、白)かけしたわけで、今後、何一す。本年の四、五、六月分)生、ネズミやハエの退治は 延坪は三一七㎡(九六坪)」がたく思つています。 出動消防車は自動車ポン 御協力に対して深く感謝致 までにキチンとおさめて下 魔によつで防ぐほかありま 町にも大きな御迷惑をお

致します。 町民の皆さんに深くお詫び | 五才以上の人は月額百五十 含む二二〇名であつた。 消火人員は一般人二五名を 「被害を受けた池上さん田 火元の小永井一雄氏語る

の点に注意して、再びこん ところが非常に多くなつて 従来赤痢は夏の病気だとい ですが……、今後一層と 責任でとりまとめ納入する の数が一番多い病気です。 どにも考慮を払つていたの一合など、加入者がお互いの なことのないよう努力しまきました。 を注ぎ、消火器等の設置な 日頃、工場内の管理には意 弁解じみますが、私は常|になつています。 いの協力で隣保班、納税組 保険料も各町内ともお五

火にこぎつけまして、ありこともできます。 ただ、今回の火災におい | 難な方は、役場に届出をし

消防団、一般の皆さんの一後のために、保険料は納期」りませんので個人々々の注 思わの事故に備え、又老|染病のように予防接種があ

今月は保険料の納期限で | 手洗いの助行、食器の衛 | 木楽会 (木島)

浦島会(清水)

二六名

二五名 西野下平)

美寿司会(小山) 二六名 れていた。 老交会(辻・道上・道下・ 四八名。すつかり、藤次郎に伝承さ すぐれたものを編み出し、 じた外科的経験を加えて、

五三名 根方・水ノ口) 五六名 の明け暮れから必然的に生

二五名 楽寿会 (新町四十九) 二七名

人間自然の姿で、宗教以前

|そして同時に近所隣りの皆||厚い敬意が払われて の本質的な人の道ではなか。癒させることの可能 たらぬ自分を反省する場所 まに感謝すると同時に、い ろうか。私たちは御先祖さ

クラブです。 「月一ぺん集まつて、御詠」ながら、ふと外を見ると、 ことを嬉しく思つています こうした集いを持つている 私たちにとつてはとても また会員の一婦人は… と語つていた。 いわばコーラスをする 頭布で顔を包んだ武家が二

るようにという口上を聞き

藤次郎は、すぐ来てくれ

を

蔵が激しく雨戸をたたいた

12 御

集 後 記

る。一人が案内に立ち、 に云つて外へ出た。 持と御詠歌の終つたあとの | 丞知した。患者の状態の要 | の口調で、はじめは秘密の

点を聞き、身仕度をととの 由蔵をいたわるようにして の空気を察した藤次郎は、

ために二人の命をもらうつ

えて、母親に、すぐ戻つて

くるから安心しているよう | 術に懸心させられたこと、

又人の秘密を決して他へ洩 もりだつたが、藤次郎の医 たずんでいた。すぐその場

人、殺気をみなぎらせてた

えんでいた。 の洗濯ができます」とほほ 笑いの雑談で一カ月分の命 養をするという夾やかな気 大きな楽しみで、先祖の供

り、月一度づつ各戸輪番を一てはいるが、先祖の徳をし 本通四丁目では、十一年;の和合のために、いわゆる 「一応、宗教的な形をとつ 「先達」のある婦人は… び申上げます。 関係町民の方々に深くお詫ぐもぐ云いながら別れよう 務上の都合により掲載不能 して続いてくる。小池の部 となり、まことに申訳なく落を通るとき、由蔵が、も 八月号には七月分を掲載一つちりと腕を捕えて、ひき 人の流れ六月分が戸籍事|人が背後を押さえるように

第 33 号

泳げるよう なりなしか

たけど、へんだ ちっともさすま

投票率

前回参院選投票率(34年)

七四・〇七%

二日講と呼ばれる集りがあ 人たちから成る自主的な十 前より、中年以上有志の婦一唱和をとげてきている。

投票者 有権者

14 5

ひとり 500

ヒックが

。先生

ように職員組合を結成する」り専念しうるだけの収入や

町民の皆さん、御存知の

ていますが、それにはやは

交渉、業務、職務、分限に 町職員団体に関する登録、 会定例会において、富士川

が決議された。 ついてそれぞれ条例の制定

参院選投票率結果

唱和の集い十余年

先祖の供養と親睦をか

ね

八六七七人 八三・一七% 七二一七人

念することが義務づけられ

執行委員八名の決定をみた|第一義とし、その職務に専

# 中さん小林さんには勿論、||才までの人は月額百円、三| ないうちにおさめましよう 国民年金の保険料は三四|ら七月三十一日までに忘れ 故が起つてからではおそい |業を実施促進しなければな| め市町村で環境衛生施設事う。 尿処理施設など発生源に対 きな事業、上・下水道、

円を納期までに納めること 伝 染 病

老 人 結 ク 成さ

ラ

ブ

n

ま が

L

た

母と二人、四十九の薬師

人の女姿があつた。 の介抱をしているらしい三 武家と、すとし離れて思者

人の、いずれも面を包んだ 呼ばかり草場のところに数

浦原境の潅木林の中、

われてきましたが現在では 法定伝染病のなかで患者 "セキリ

保険料を納めることが困 一年を通じて発病しており ます。しかし梅雨時期から 七月早々から各町内に老|白寿会(小池・宮町)

宝塔会 (旭町)

三八名

四名

名簿未提出

て一人の怪我人もなく、鎮 て保険料を法的に免除する 夏にかけては、やはり最高 明老会(本通四丁日) です。この赤痢病は他の伝 ことぶき会(東町一・二丁 福寿会(本通一・二丁目) 北斗会(山田・堀の内) した。 人クラブが結成されてきま

二九名 三八名

粒良野)

八坂クラブ(市場・中沢・ 八十寿会(池野·三十坂·

|二||名||草の使用法を基礎に、戦乱||藤次郎は再び冷静な医師の

坊の有識者に伝受された薬

は、奈良にいた長い間、僧

亡父の、医術に対する知識 居を営んでいた。 覚というどころに小さい住 た医術をよくする男だつた 隣の村々にさえ知られてい **| / 郷部落ばかりでなく、近** 

は華美な衣裳をまとつた若

に照らされて、敷物の上に

近ずくと、ばつとした灯

い気品のある娘だつた。 横たわつている患者、それ

唐突な感じを受けたが、

戦国動乱の末期を送つた

百余会(原方)

長生会 (半在家)

三五名 などと呼んでも、人々の彼 後に生気ずく妙薬だつた。

したがつて「薬草取り」

| 者は仮死の状態に入り半刻 に腰元らしい女に指示を与

えた。数えて二十たてば患

から取出し、飲ませるよう 使命観に戻つた。

苦痛をなくす薬液をつば

割合を占めていて、 除去の腕が、大きな 性、内部疾患の外科 は、相当な傷をも治

おつて気散じを防ぎ 肩の傷を観察した。 患者の顔を布でお

られていた。差出さ 深さを測定した藤次 れた矢羽根部分とで りのところで切りと 欠は肌から二寸ばか

夏のある夜半、小池の中|郎は、矢尻が骨に達してい 半練りの傷薬を途布し、 出し、患部を焼酎で洗つて た。手術は真剣、かつ迅速 ないことを知り、比較的楽 らし木綿で巻きつけた。 な手術に終ることを了解し 郎に近づいた武士が、年配 に行なわれて、矢尻を抜き 薬箱を片付けていた藤次

としたが、後の武家は、が 由蔵はがくがく震えてい 一う神聖な業に胸をうたれた もかんじんな点は生命を救 らすことのないような人柄 からだと云つて、 だと判つたこと、そして最 由蔵は、帰り道、すつか

り息を吹きかえしたように

終

-70-

描染り 死の関

町の昔ばなし

する整備対策は、国をはじ を家族全員で実施しましよ で簡単にできる「手洗い」 りません。私達の日常生活

その七 がらなかつた。 なるかという考えは燃えあ ていたので、わが身がどう る激しい興味の中に没入し 次郎は、すでに医術に対す